

薬の伝言板～てんかん～



No.279 2021年2月

丸子中央病院 薬局

皆さんは「てんかん」という病気をご存じですか。何となく「発作を起こす病気」というイメージで子供がかかる病気であると認識している方も多いかと思いますが、実際に最も多く発症しているのは高齢者であり、身近でも起こりうると知っておきたい病気の一つです。今回は、てんかんと使用される薬について紹介します。

てんかんとは



私たちの体は、脳が電気信号を出すことで動いています。その信号を出すにあたって、脳は普段から「興奮系」の神経と「抑制系」の神経をバランスよく働かせており、それによって穏やかな活動状態を保っています。しかし、このバランスが崩れ興奮系が強くなりすぎると脳の活動は乱れ、正常に動かなくなります。これをてんかん発作といいます。

てんかんの原因は大きく分けて2種類

脳にてんかん以外の別の疾患がある人に起こる「症候性てんかん」と、原因不明の「特発性てんかん」に分類され、その割合は症候性が約6割、特発性が約4割です。

種類	原因	発症時期
症候性てんかん	脳梗塞、頭部外傷、アルツハイマー型認知症など	高齢者に多い
特発性てんかん	不明	小児期で発症

てんかん発作の種類

脳の一部から異常が発生する「部分発作」と、脳全体に発生する「全般発作」に分類されます。代表的な発作について紹介します。

部分発作

種類	特徴
単純部分発作	吐き気や目がチカチカしたりといった感覚発作が起こったり、部分的な運動の発作が起こりますが、意識障害はありません。発作時間も短くこれが時折起こる程度であれば生活に問題ない場合が多いです。

種類	特徴
複雑部分発作	ぼーっとして、動作をとめて呼びかけに反応しなくなったりします。意識障害をきたし、発作中の記憶はありません。
二次性全般化発作	単純・複雑部分発作から興奮が脳全体に広がり全身にけいれん症状が現れます。

全般発作

種類	特徴
強直間代発作	手足を伸ばして全身が硬くなる、手足を一定のリズムで大きく動かしたりします。発作時間は1分程度であり、発作後はそのまま眠ったり意識が朦朧としたりします。
欠神発作	突然動作が停止したり、会話中にぼーっとして反応がなくなったりします。主に小児期に発症しますが、発作時間も短く周囲からは気づかれないことも多いです。
ミオクローニー発作	全身、あるいは一部の筋肉がピクッと動いたりします。症状が出やすいのは寝起きですが、発作はほんの一瞬です。
脱力発作	突然体に力が入らなくなり無防備に倒れたりします。発作は数秒以内と短いですが頭を強打する可能性があり危険です。



当院採用の治療薬

てんかんの治療薬は「興奮系」を抑えるタイプと、興奮の広がりを抑える「抑制系」の働きを強めるタイプがあります。

興奮系の働きを抑える抗てんかん薬

- ・アレピアチン錠
- ・バルプロ酸ナトリウムシロップ
- ・デパケン錠
- ・カルバマゼピン錠
- ・ゾニサミド錠
- ・ビムパット錠
- ・ホストイン注

抑制系の働きを強める抗てんかん薬

- ・リボトリール錠
- ・フェノバルビタール散
- ・ジアゼパム注

興奮系を抑え、抑制系を強める抗てんかん薬

- ・イーケプラ錠、注



てんかんの症状の起こり方を知ることは、診断や治療においてとても重要となります。てんかん発作は抗てんかん薬などによってコントロールできることも多いため、心当たりがあり疑われる場合には直ぐに医療機関に受診しましょう